ナシ産地の活性化による儲かる経営体の育成

県南農林事務所経営・普及部門

石岡市は、県南地域を代表するナシ産地ですが、白紋羽病によるナシ樹の枯死や、生産者の高齢化による産地規模の維持拡大が課題となっています。当部門では、新・改植や白紋羽病の治療による園地の若返りと生産性向上、コスト削減と安定多収技術「摘心栽培」の導入等による産地規模の維持拡大及び県育成品種「恵水」の導入と高品質安定生産を推進し、ナシ産地の活性化と儲かる経営体の育成を図りました。

改植と白紋羽病治療による園地の若返りと生産性向上

改植を推進した結果、石岡３産地の若木植栽割合は7.6%→10.6%、60歳未満・後継者を有する経営体の苗木導入本数は9.5本→18.5本となり、新・改植が促進されました。

また、栽培講習会を通じて白紋羽治療を目的とした温水点滴処理を推進した結果、処理面積は目標値の96％を達成しました（**写真１**）。既実施者においては、温水処理の効果がみられるため安定生産のツールとして定着しつつあります。

写真１　温水処理機の講習会の様子

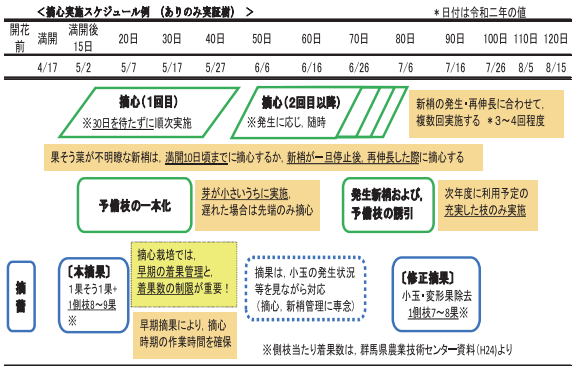

図１　大玉生産と安定多収のための「摘心技術」の普及（マニュアル化）

産地規模の維持拡大

コスト削減のためにJAやさと梨部会園部梨選果場の統一施肥基準の修正を提案した結果、施用窒素および資材費の削減に繋がりました。

摘心実証ほ調査結果を整理し、講習会で提示（**図１**）することで安定多収技術を推進しました。

開花期の低温や梅雨明け前後の極端な気象の変化により、出荷量が280t（前年比57%）と大幅に減少しましたが、霜害果に対応した等級の見直しや全国的な品不足による単価向上により、販売額は1.37億円（前年比82%）と大幅な低下を抑えることができました。安定生産についても継続して支援しています。

産地間共選共販体制の維持拡大

２JA ２選果場「恵水」共選共販は令和２年度で３年目の継続となり、出荷量は7.55ｔ（前年比161%）に増加しました。適正摘果指導等により、天候不順による肥大不良の中でも、中心階級（９玉）の割合を維持し、小玉果率（４Ｌ未満）も２％に抑えられました（**図２、写真２**）。「恵水」の共選は、ロット確保による需要に対応した有利販売及び規格の統一による品質安定に繋がりました。

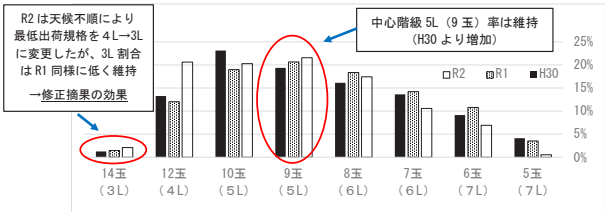

図２　H30 ～ R2「恵水」階級比較

写真２
６玉（７L）入りの
「恵水」５kg箱